YKH
YOKOSUKA
KYOSAI
HOSPITAL

2022
spring

# れんけいだより

Vol. 73

国家公務員
共済組合連合会 横須賀共済病院 広報誌

- 地域医療支援病院
- 救命救急センター
- 周産期母子医療センター
- 臨床研修指定病院
- 地域がん診療連携拠点病院
- がんゲノム医療連携病院
- 神奈川 DMAT 指定病院
- 神奈川県災害医療拠点病院
- DPC 特定病院群
- 病院機能評価(3rdGVer.1.1)

## YouTube チャンネル　市民公開講座

# 横須賀がんフォーラム

## CONTENTS


WHO ウェビナーを終えて（オンライン講演会） …… P 2
耳鼻咽喉科部長就任のご挨拶 …… P 3
YouTube チャンネル　市民公開講座
横須賀がんフォーラム …… P 4
医療支援のため
看護師を沖縄県へ派遣 …… P 6
救命救急症例検討会 …… P 7
部署探訪 …… P 8
がんゲノム …… P 10
医療機関訪問 …… P 11

# WHOウェビナー（オンライン講演会）を終えて

横須賀共済病院 病院長
長堀 薫

連携いただいている医療機関のみなさまには、いつもお世話になっております。

さて、人生で初体験、WHO デビューです。2 月 22 日　西太平洋事務局が主催したセミナー “Digital Transformation in Healthcare” で、“音声入力できる電子カルテの開発” をテーマに講演しました。

事務局はフィリピンのマニラ。日本と韓国の演者が 4 人話した後に、オープンディスカッションでした。それぞれの国のデジタルヘルスについて、島根大学　名越究教授、韓国 Health Information Center　Lim Geun-chan 教授から報告され、次いで開発事例としてソウル大学ブンダン病院　HoYoung Lee 教授から遠隔 ICU、そして当院の病棟ナースラウンドでのパイロットスタディが紹介されました。

さすがデジタル先進国の韓国、ビッグデータの収集と改革が進んでいますが、エンドユーザーレベルの現場での適用については、まだ追いつく余地がありそうだと感じました。

驚いたのは、スピード感です。話があったのは 1 月 26 日。2 月初めに日程の打診があり、22 日は打ち合わせかと思ったら、実際のセミナーでした。けっこう準備が大変でした ( 汗 )。

あと、言葉です。日⇔韓、韓⇔英の 2 系統の同時通訳がつき、Zoom では 3 言語のどれでも選択できました。発表はがんばって英語でやったのですが、ディスカッションはふつうに日本語でした。

あまりビックリすることが少なくなってきた今日この頃、久しぶりに緊張しました。ちょっぴり若返ることができた感じでしょうか。

## WHO とは何か?

WHO（World Health Organization：世界保健機関）は、国連の保健医療に関する専門機関です。
WHO は、人種や宗教、政治信条といったものに関わらず、すべての人にとって健康は基本的な人権であるということを謳い、その達成を目的にした組織です。



# 部長就任のご挨拶

## 「人の痛みがわかる、患者さん中心の医療を実践」

### 医療安全を第一に、高度で低侵襲な耳鼻咽喉科診療を目指します。

2022 年 4 月より、鈴木一雅部長の後任として着任した中山明仁（ﾒｲｼﾞﾝ）と申します。横須賀共済病院の診療の 3 本柱である、先端医療・がん治療・救急治療に応えるため、高レベルな耳鼻咽喉・頭頸部外科領域の多様な低侵襲処置・手術を積極的に取り入れ、患者さんの日常ライフバランスの早期回復に貢献致します。

スタッフ一丸となって取り組んで参ります。耳鼻咽喉領域でお困りのことがありましたら、是非遠慮なくご相談ください。宜しくお願い申し上げます。

耳鼻咽喉科部長
中山明仁
Meijin Nakayama

## Profile

**出身校**　北里大学卒
昭和 61 年 (1986 年)

**専門分野**　耳鼻咽喉科全般、
鼻閉・いびき改善手術、
頭頸部腫瘍機能温存手術

## スタッフの声

- スタッフにも患者さんにも優しい
- 穏やか
- 几帳面で綺麗好き
- 物事に対して丁寧
- 紳士的でダンディー

耳鼻咽喉科スタッフ

YouTube チャンネル　市民公開講座

# 横須賀がんフォーラム

## 当院では動画配信サイトYouTubeにて、期間限定配信を行いました。
## 2021年度「がんフォーラム～身近ながんの予防と治療～」を終えて

今回の“がんフォーラム”は、まだコロナ禍であるのを踏まえて、Web配信で行われました。

内容（テーマ）、と講演者は、以下の通りです。

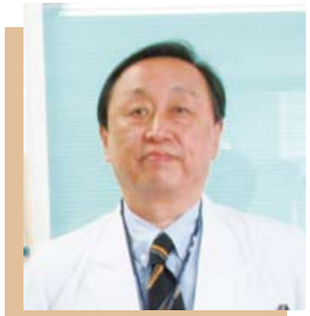
| | |
|---|---|
| Ⅰ．胃癌、ピロリ菌について | 消化器内科、渡邉先生 |
| Ⅱ．肺癌について | 呼吸器外科、安藤先生 |
| Ⅲ．乳癌について | 外科、鈴木先生 |
| Ⅳ．前立腺癌について | 泌尿器科、小林先生 |

YouTubeを視聴した限りでは、各演者は、臓器と疾患の解説、そして治療方法については、多岐にわたる選択肢があるということ、それをとても判かり易い表現で、解説されていらっしゃいました。

従来は、会場で参加者の皆様の講演を受講している真剣な表情や質問を目の当たりにできるため、その反響をリアルタイムで実感することができましたが、今回の反響については視聴件数としてのご報告となります。

Ⅰ.77件、Ⅱ.89件、Ⅲ.100件、Ⅳ.77件といずれも盛況でした。

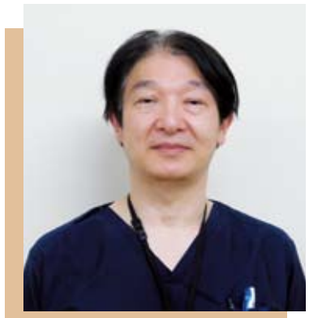
今後も、がん医療について興味をもっていただき、ご自身の健康づくりにお役に立てれば幸いです。



呼吸器外科部長

諸星　隆夫

内視鏡手術センターチーム代表



診療部長 兼 泌尿器科部長

小林　一樹

いつも当院の診療にご協力いただき感謝いたします。

今回のがんフォーラムでは前立腺癌について講演させていただきました。

前立腺癌の罹患率は男性1位です。死亡数は部位別で7番目です。治りやすい癌ですが、亡くなる人も少ないわけではありません。

当院では医師会の先生方と協力して、PSA検診などを通して早期発見に努めています。転移がない状態で発見できれば5年生存率は90%以上です。早期癌に行う手術ではロボット（ダヴィンチ）を導入し、低侵襲になるようにしています。進行癌に対してはホルモン治療や抗癌剤治療も積極的に行っています。

また最先端の治療を提供できるよう、患者さんに有益性の高い治験は積極的に導入しています。

最善、最良の前立腺癌治療ができるよう今後も努力していきます。



今回はコロナ禍とのことで初めてのweb配信となり「胃癌を予防・早期発見しよう」をテーマに講演させていただきました。

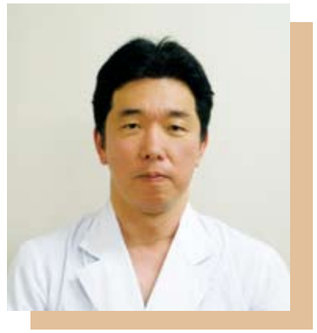
前半は、胃癌のリスクが高まる「ピロリ菌」の感染経路・感染後の経過・検査方法・除菌に対する治療薬の流れなどをお話させていただきました。

後半は、胃癌の進行度と予後・治療方法などをお話させていただきました。

できるだけ分かりやすく、端的になるようこころがけましたがいかがだったでしょうか（少し時間的に長かったかもしれません）。

Webのため反響は分かりづらいですが、視聴された方が少しでも病気に関心・理解して頂いたら幸いです。

今後ともよろしくお願い致します。



消化器内科部長

渡邉　秀樹

外科

鈴木　千穂

当院に勤務して2年、研修時代を含めると計7年になりますが、がんフォーラムは恥ずかしながら初めて参加させていただきました。

私のテーマは「乳がんの予防と治療」でした。私たちが日々診療で向き合うのは、乳がんと既に診断された患者さんですので、一般の方々は、どのような情報を求めているのかを考え資料を作成しました。特に、乳がんの予防法や検診の意義に関しては私も改めて勉強させていただきました。

乳がん患者さんは近年増加傾向にあります。しかし、乳がんはきちんと治療をすれば完治が期待できるがんです。決して過度に恐れることはなく、日ごろから自分の乳房と向き合い、気づいたことがあればいつでも医師に相談していただきたいと思います。特にコロナ禍もあり、医療機関へ受診するのを躊躇されている方もいるかもしれませんが、今回の企画で、がんに対する理解だけでなく、がん診療に関わる病院やスタッフを身近に感じていただければ幸いです。

医療支援のため

# 看護師を沖縄県へ派遣

**横須賀共済病院では、厚生労働省からの派遣要請に基づき**
**医療体制がひっ迫していた沖縄県へ看護師を派遣しました。**

外来師長室
診療看護師 (NP)
クリティカルケア認定看護師
**森山 雅明　主任**

派遣先の浦添総合病院は沖縄県全域から一日に何件も救急車やドクターヘリで COVID-19 関連重症肺炎の患者さんを受け入れている状況でした。そのような壮絶な医療現場であるにも関わらず、沖縄の医療者の方々からは「ありがとう」「大丈夫」と多くの声を掛けていただいたことを記憶しております。

私自身が沖縄で受け取った感謝の気持ちや肯定的姿勢を見習わせていただき、これからも救急医療に携わって参りたいと思います。

外来師長室
**菖蒲 美穂**

第 6 波に 2 週間、浦添総合病院へ災害派遣に行きました。

医療従事者の感染拡大で就業できない看護師に変わり、レッドゾーンの療養環境調整や患者ケア・患者さんの受け持ちを行いました。

慣れない環境で戸惑う事もありましたが、地域を越えひっ迫する医療現場の支援に携われたことは看護師として学びを深めることができ良い経験となりました。

外来師長室
**田中 沙登史**

昨年 6 月浦添総合病院の重症コロナ専用病床へ 1 週間派遣させて頂きました。

久しぶりに経験する ICU で始めは戸惑いましたが、派遣先の病院では温かく受け入れて下さり、短期間でしたが派遣先の方々と繋がりができ、私にとって貴重な経験となりました。

支えて下さった職場、同僚、病院のみなさま、そして家族に感謝いたします。

外来師長室
**齋木 秀美**

沖縄へ医療派遣に行かせて頂き、2 週間 浦添総合病院で現地スタッフと共に働きました。

院内感染予防策に則りベッド周囲の環境整備や消毒作業をしながらコロナ病棟で勤務し、感染予防に配慮したコミュニケーションなどを学ぶことができました。

コロナ感染で家族と会えない患者さんの訴えを傾聴するなど貴重な体験となりました。



第33回

# 救命救急症例検討会

**2022 年 3 月 1 日に当院にて、救急症例検討会を開催しました。**

本検討会は、日頃の救急症例を題材に、救急隊病院前活動や搬送後病院治療を相互に提示し、当該症例での問題点や、日々進歩する中での標準治療を検討する勉強会です。

感染予防対策として、救急隊員の方には web 形式で参加していただきました。

今後の救急医療発展による地域医療への貢献を目指しています。

**症例 1**　冠攣縮性狭心症から心室細動をきたしたと考えられた一例
循環器内科　吉川　宏

**症例 2**　病院前評価に苦慮した高齢者の多発外傷の一例
救急科　伊藤　太一

**症例 3**　脳動静脈奇形からの出血
脳神経外科　岡野　将之

循環器内科　吉川　宏

救急科　伊藤　太一

脳神経外科　岡野　将之

## 特別講演　「墜落産の対応　～小児科医の視点から～」

小児科部長
**佐藤 美保**

今回は、「墜落産の対応」について小児科の立場でお話をさせていただきました。墜落産とは、分娩施設に到着する前に赤ちゃんが生まれることで、頻度は稀ですが赤ちゃんの予後を左右する重大な瞬間であり、適切な対応が必要です。本検討会の直前に救急隊の方が素晴らしい対応をしてくださった墜落産の症例がありましたので好対応事例として冒頭でご紹介し、続けて、新生児の蘇生について簡単にお話ししました。

墜落産は遭遇する機会が少ないためシミュレーション教育が有用で、学会主催の新生児蘇生法講習会の受講もおすすめしました。

今回は Web 開催で救急隊の方々とお会いできず残念でしたが、小児救急症例に関して情報共有する場を定期的に設けて、連携を図っていきたいです。

# 部署探訪

## 医療秘書科

### 医師の事務補助としてだけではなく チーム医療の一員として

副院長
医療秘書科 部長
**豊田 茂雄**

医療秘書科 事務課長
**柴山 由香理**

医師事務作業補助者とは、医師が行う業務のうち、事務的な業務をサポートしています。

2011 年 9 月に「医療秘書科」として 24 名でスタートし、現在 50 名が所属しています。

業務内容は診療報酬の施設基準によって定められていますが、当院では、以下の業務を行っています。

| | | |
|---|---|---|
| **診断書作成補助** | ： | 診断書や診療情報提供書などの下書き |
| **返書管理** | ： | 紹介元へ返事 / 返書の記載をしているか確認し、事務返書を送付 |
| **外来診療補助** | ： | 内科、眼科、脳神経外科 |
| **病理・画像未確認** | ： | 診断レポートの見落としがないか確認し医師へ連絡 |
| **医療の質の向上に資する事務作業** | ： | がん登録や外科手術の症例登録<br>(National Clinical Database = NCD) |
| **医師等の教育や研修カンファランスのための準備作業等** | ： | 教育研修センターや臨床研修医の事務業務 |

医師事務作業補助者は単なる医師の事務補助としてだけではなく、医師の傍らで多職種とも連携し診療業務が円滑に行えるよう医師の負担軽減に貢献しチーム医療の一員となれるようがんばっていますので、どうぞよろしくお願いします。

**医師事務作業補助者**

| 2020 年　がん登録 | |
|---|---|
| 登録件数 | 2,235 件 |
| 男性 | 1,287 件 |
| 女性 | 948 件 |

| 2021 年　書類下書き件数 | |
|---|---|
| 主治医意見書 | 2,118 件 |
| 生命保険診断書 | 5,894 件 |
| 医療要否意見書 | 1,754 件 |
| 傷病手当金証明書 | 1,408 件 |
| 訪問看護指示書 | 704 件 |
| その他 | 315 件 |

| 2021 年度　データ登録（一部） | |
|---|---|
| 外科NCD | 1,151 件 |
| 日本麻酔科学会麻酔台帳 | 5,145 件 |
| 脳神経外科JND | 1,076 件 |
| 整形外科JOANR | 956 件 |
| 形成外科NCD | 916 件 |

## 臨床研修管理部・教育センター

### 三浦半島地域の急性期医療を担う基幹病院として

当科では、初期研修医と専攻医のプログラム管理を担っています。

当院のプログラムは、急性期を中心としたプライマリケア重視の研修が基本方針です。

初期研修では 1 年次、内科 24 週と救急科 12 週を必修とし、それ以外は必修科である外科・小児科・産婦人科・精神科を中心に希望の科を選択します。

２年次は、地域医療４週と、必修科が残っている者はそれぞれ選択し、残りの期間は自由選択となります。

地域医療研修先の先生方にはいつもご協力いただき感謝しております。また、今後ともご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

# がんゲノム医療連携病院

化学療法科部長
がんゲノムセンター長
**坂下 博之**

【プロフィール】

1992 年東京医科歯科大学卒業。東京医科歯科大学医学部附属病院、旭中央病院、都立墨東病院等で勤務の後、米国トーマスジェファーソン大学に留学。以後九州大学生体防御医学研究所分子腫瘍学、大分大学腫瘍内科を経て、東京医科歯科大学がんプロ特任助教として勤務。

2019 年より横須賀共済病院化学療法科 / 呼吸器内科勤務

2020 年 1 月にがんゲノム医療連携病院に指定されました。連携先のがんゲノム医療拠点病院は、東京医科歯科大学病院です。

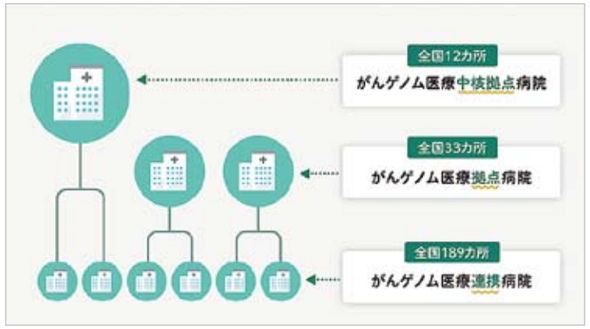
2020 年 9 月に最初の検査を提出してから、2022 年 4 月までに計 38 件の検査を行いました。

現在までに約 10%の患者さんが治験を含め、結果に基づいた治療を受けられました。現在は血液を用いた検査も可能となりました。

## ゲノム医療を必要とするがん患者さんが、全国どこにいても、がんゲノム医療を受けられる体制を目指して

厚生労働省は「がんゲノム医療中核拠点病院」を全国に 12 カ所、「がんゲノム医療拠点病院」を 33 カ所指定し、各「がんゲノム医療中核拠点病院」および「がんゲノム医療拠点病院」と連携する「がんゲノム医療連携病院」を 189 カ所公表しています（2022 年 4 月 1 日現在）

保険診療としての「がん遺伝子パネル検査」は「がんゲノム医療中核拠点病院」、「がんゲノム医療拠点病院」および「がんゲノム医療連携病院」でのみ実施可能です。




国立がん研究センター
がんゲノム情報センター
C - CATより　引用



# 医療機関訪問

## 池田町クリニック

【耳鼻咽喉科外来新設　2022 年 1 月 11 日】

院長　福山 聡 先生

はじめまして。院長の福山聡と申します。平成 9 年に鹿児島大学医学部を卒業し、同大学病院で耳鼻咽喉科の専門医を取得しました。

その後、免疫学・ウイルス学の基礎研究、東京都内の小児科クリニックでの耳鼻咽喉科診療や老健施設などでのプライマリケア医療の経験を経て、この度、湘南在宅クリニックに耳鼻咽喉科外来を新設いたしました。それに伴い名称を池田町クリニックに変更いたしました。

訪問診療は、非常勤の内科医、精神科医とチームを組んで継続しております。当院では COVID-19 対策として、待合室の一角に隔離室を設置し、ID NOW™ による新型コロナウイルス遺伝子検査を院内で即時に行える体制をつくりました。

横須賀共済病院と連携させていただき、耳鼻咽喉科診療と訪問診療を通して地域医療に貢献できるよう、スッタフ一同努めてまいります。

今度ともどうぞ宜しくお願い申し上げます。

## さくら在宅クリニック

【新規開業　2022 年 4 月 1 日】

院長　内田　賢一 先生

内田賢一と申します。

2002 年福井大学医学部卒業後に静岡西部における中核基点病院、中東遠総合医療センター脳神経外科部長などを歴任し、出身地である湘南に戻り4月より逗子市内にて、さくら在宅クリニックとして訪問診療専従クリニックを開始させて頂きます。

病院への通院が困難な患者さん、最後のときを自宅で過ごしたいと望まれる患者さんに確かな医療を届けられたらと思っております。

在宅診療は内科をはじめ外科・皮膚科・耳鼻咽喉科・泌尿器科など提供すべき医療が多岐にわたる場合が多いのが現実です。こうした心不全、糖尿病、褥瘡、嚥下機能、排尿障害などを自身で管理してきた経験を生かすことが出来たらと考えております。

自宅で療養されている患者さんは病気や加齢による不安が常にあります。

患者さんを第一に**「24 時間 365 日、徹底対応します」**ことを必ずお約束いたします。「在宅医療は生活を診ること」であり、病院診療の縮小版でなく「動く総合病院」をコンセプトにした在宅医療を展開していけたらと考えております。

## 新入職員オリエンテーション

**2022年3月31日**

約230人が3つの会場に分かれ、感染対策を徹底した上で、ハイブリット方式による「新入職員オリエンテーション」を開催しました。

期待と不安が入りまじる中、皆緊張した面持ちで臨んでいました。

※2022年度　新入職員オリエンテーションの模様が、日本経済新聞4月1日付にて掲載されました。

## 退職者　2022年3月31日付

■小　児　科・・・北尾 牧子、木内 望美、池川 環、飯塚 敦広、大山 里恵
■外　科・・・八子 博貴、酒井 淳、伊澤 朗、小林 圭
■脳神経外科・・・礒田 将徳
■形成外科・・・下村 実貴子、土田 理子
■整形外科・・・北野 航大、平野 瑛久、三井 英央
■呼吸器外科・・・安藤 耕平
■皮　膚　科・・・佐藤 愛、合田 聖子、赤嶺 智美、齋藤 栞
■泌尿器科・・・伊藤 悠城、三山 健、高梨 将人、山口 克哉
■産婦人科・・・松﨑 結花里、萩原 有子、安積 万梨子、鈴木 沙也香、清瀬 愛
■眼　科・・・青木 真一
■耳鼻咽喉科・・・鈴木 一雅、逸見 真弘
■放射線科・・・青木 亮、中嶋 賢人、柿内 明
■麻　酔　科・・・菊西 陽香、榎本 夕里亜、浅井 美鈴、足利 紗世羽
■救　急　科・・・横井 英人、藤井 楓、森 来実、岸本 勇将、伊藤 太一
■中央検査科・・・増田 良平
■血液内科・・・大内 史彦
■内分泌糖尿病内科・・・王城 人志
■循環器内科・・・飯谷 宗弘、伊藤 徳彦、吉川 宏、津野 航
■呼吸器内科・・・藤原 高智、伊藤 達哉、大平 悠美
■脳神経内科・・・川名 康仁
■消化器内科・・・野澤 さやか、古谷 晴子、大坪 加奈、大山 文子、白川 純平
■腎臓内科・・・塩路 慎吾、寺井 あゆみ
■内　科・・・岩永 翔子

## 理　念

「よかった。
この病院で」

患者さん・家族・職員
すべての人が安心できる
病院をめざします

## 編集後記

春の代表的な花といえば、“桜“ですよね。

“桜“を含む四字熟語に、「桜梅桃李（おうばいとうり）」という言葉があります。桜、梅、桃、李（すもも）のことであり、それぞれが独自の美しい花を咲かせるように、他人と自分を比べることなく、個性を磨こうという教訓を含んでいるそうです。

人とよく比べてしまうことがありますが、

“自分らしさを大切に“

“自分らしい輝きを見つけながら“

新年度をスタートしてみてはいかがでしょうか？

本年度も、横須賀共済病院とれんけいだよりを宜しくお願い致します。

地域連携室　山田・宮坂・加藤

国家公務員共済組合連合会
**横須賀共済病院**
〒238-8558 神奈川県横須賀市米が浜通1-16
TEL　046-822-2710（代表）　FAX　046-825-2103（代表）
**地域連携センター地域連携室**
TEL　046-827-1117（直通）　FAX　046-823-5020（直通）

**YKH れんけいだより**
Vol.73
発行日：2022年（令和4年）5月27日
編　集：地域連携センター地域連携室